

2013・9月議会速報要録

連合委員会

1、原発問題について

おさべ県議；原子力規制委員会について、お互いに歩み寄れない状況だが、その認識、対応について。

泉田知事；規制委員会については、他県の立地県からも独立と独善をはき違っていると指摘されている。自治体の意見に真摯に耳を傾けたり、丁寧に説明しようとする姿勢が不足している。規制委員会には地方行政をわかる委員が入っていないくて、IAEAの深層防護の第5段階（住民避難など）が事実上欠落して、なぜ対応できるのか、成り立ちやメンバーからして問題が多いと考えている。あるいは被ばくの基準を緩和して、以前に比べても、県工に影響が出る数値になっているなど異常な事態と受け止めている。まず委員長にお会いしてとして、このあたりのお話を聞くということが、良好な関係を築く第一歩になるものと考えている。規制委員会には、住民の被ばく回避のため、地元自治体と事業者との協議を尊重して頂きたい。ゆめゆめこれを無視した審査はやらないで頂きたい。原発の性能基準に限るのではなく、地域の安全をいかに確保するかという観点で審査を行っていただきたい。

おさべ；新規制基準はどのような役割を持っていると考えればいいのか。

知事；新基準は最低限の性能基準に留まっているという性格を持っていると思う。安全対策の一つの要素にしか過ぎない。むしろハードだけで安全が確保できると錯覚を与えることは有害ではないか。法制度、マネジメント、人の判断が誤るということもある。

いずれにしても、これは安全基準ではなく、あくまでも規制基準で、対策の一つに過ぎない。それも国際基準であるIAEAの深層防護の第5段階が事実上欠落していることをよく認識したうえで対処していく必要がある。

おさべ；最低限の基準であり、これを守っていても福島原発事故のものが起こりうるということだが、このことを前提に再稼働するということになるが、規制庁の考えについてどのように考えているのか伺う。

知事；規制委員会の考えは長部委員指摘のとおり。事故が起こる前提で基準が出来ていて、



一定の確率で事故が起きるということだが、規制委員会は再稼働の判断はしないと言っている。それは規制委員会の責任を解除するための仕事をしていると理解している。

おさべ；最低限の基準に加え知事が言う法整備、避難計画、防災計画などの整備できたとして福島原発のような事故は起きないと言えるのか。

知事；それを判断するために、従前から福島原発事故の検証と総括が必要と申し上げている。

おさべ；今の規制基準を中心に考えていくと、シビアアクシデントは起こり得る、ということを知事に知らしめる必要があると思うが。

知事；正確な情報を知ったうえで判断していくことは極めて大切だと思っている。メルtdownの確率を、規制委員会に言わせれば1万年に1回ということになっている。世界には460基を超える原発がある。つまり25年に1回はメルtdownが起きるのが今の事故の発生確率だ。そのレベルの安全、そのレベルの規制基準に過ぎない。決して安全基準ではないということを広く認識する必要がある。

おさべ；ぜひそのことを県民にも知らしめて、その中で県民が、賛成、反対の判断があると思うので、ぜひお願いしたい。

次に、これまで規制庁のそっけない対応や、不十分な規制基準などを踏まえ、規制委員会の審査で安全性が確保されることに疑問だと言っていたのに、このたびの東電の適合申請について条件付き承認を行ったが、改めて所見を伺う。



知事；東電の広瀬社長が設備の安全性に自信がなく、第三者の目を入れてほしいとの強い声があった。原発は停止していても危険であり、地元の安全を考え、第三者の目を入れたいという気持ちを組み必要があると判断した。

おさべ；東電社長によって書類が出された翌日に了解ということでびっくりした。そこまで急がなくても、技術委員会に諮るとかもう少し慎重な対応をすべきではなかったか。

知事；県との安全協定を守ると明確に宣言されたし、県の要請にも対応するというので、立地地域の不安に向き合うという判断をした。

おさべ；これから技術委員会でフィルターベントの性能、防災計画、避難計画など審査すると思うが、どのくらいの期間がかかるのか

知事；フィルターベントに関して、技術委員会でこれからどのように相談して頂くか相談してまいる。ただ、あらかじめそのような時期などは申し上げることはできない。

おさべ；知事から、東電社長の対応について真摯な対応という発言があったが、信頼できるとの考えか。

知事；1回目にあった際には、県との協定を保護にしたいという話だった。2回目の会談の時には、県との約束は守るし、さらに県の要請も受け入れるという話だったので、明らかな違いがあると考えている。

おさべ；社長は設備の安全性に自信がないと言ったが、翌日、東電の常務は決して自信がないというわけではないと反論したとあるが、社長の自信がないとの発言は知事から事前了解をとるための方便ではないかと疑いたくなるが。



知事；それは東電のガバナンスの問題。それはしっかりやっていただく必要がある。このようなほころびが次々出るようであれば、ますます信頼感が落ちていく。それだけの話と考えている。

おさべ；知事の、お金と安全とどちらが大事か、との質問に東電社長は安全と答えていたが、それなら日本中を震撼させ、世界にまき散らしている福島原発の汚染水処理に全力投入すべきではないか。安全が大事も言葉だけではないか。

知事；安全を確保する対象は汚染水だけではないと思っている。柏崎刈羽原発の安全性確保をおろそかにしてもらっては困ると考えている。

おさべ；柏崎原発の使用済み燃料も大事だが、今、早急の課題は汚染水問題だ。しかもめどが立っていない。どうなるかもわからない。知事の言うことは違うのではないかと考えている。

次に、福島事故の検証について、国と県でお互いに進めているが、知事として、国の判断と技術委員会の判断とどちらを重んじるということになるのか。

知事；人が判断することに完全無欠ということはありませんと考えている。技術委員会が最新の知見に基づいて慎重に検証した結果については尊重していきたい。

2、TPP問題について

おさべ；政府によるこれまでの交渉経過についての所感を伺うとともに、秘密保持の取り決めがあるとはいえ政府に情報開示をしようという姿勢が全く見られないが併せて所感を伺う。

知事；秘密保持事項があり、交渉内容をそのまま情報開示するのは無理だと思うが、国民に対して我々はこういうふうを考えて、こういう方針でいきますという説明をしっかりとやることを求めていく。これに尽きると考えている。

おさべ；TPPについて、これまでずっと国の十分な説明と国民的議論が必要だということを言ってきたし、知事もその立場で国に向かって頑張ってきたが、このままでは国民は知らないまま決まってしまうこともあると心配しているが。



知事；いちばんよくないのは、国民との約束で守ることがあるわけだが、この方針を勝手に変えるということは、政府として許されないということである。基本方針を守ってやっているということをアナウンスすべきなのではないか。守れなくなるような状況があれば、きちんと説明すべきだし、そうではなくて、皆さんが心配しているということであれば、方針を変えずにやっていきますということをしっかりと説明していくべきである。それをやらないから疑心暗鬼を読んでしまう。

おさべ；そのように国に働きかけて頂きたい。

自由化率は95%が一般的になるという流れが予測されているが、そうすると重要農産物5品目が守れないということになるが、これについての所見は。

知事；従来から、少なくとも主食であるコメは関税撤廃の対象から除外することが必要であると考えている。交渉の結果、仮に国益が実現できない場合は交渉過程で撤退すべきであるし、最終手段として国会で承認しない環境を整えておくことが大切だと思う。政府が約束を違えたら、国会で批准できないという環境があれば交渉団はそれに向けてやるわけです。交渉がまとまらなければ決裂になって脱退ということだから、やはり一番大切な

は国益が守られなかった場合に、批准しないという環境を整えておくということに尽きる
と思う。

(以上制限 40 分の時間切れ)